

よく
分かる!

2019年度

移行措置のポイント



発問や学習活動，評価規準を例示！

単元計画例も掲載

Contents

- ① 2019年度 第3～6学年
年間指導計画
- ② 2019年度における『小学社会』
移行措置について
- ③ 第3学年における年間指導計画案
- ④ 第3学年の単元計画例
- ⑤ 移行措置実施の際の留意事項

本資料は，一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り，
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



※丸数字は配当時間

| 月 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|----|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 4 | 学年導入① 1 わたしたちの住んでいるところ 大単元の導入① | 学年導入① 地図となかよしになろう⑦ | 学年導入① 1 日本の国土と人々の暮らし 大単元の導入① 世界から見た日本⑨ さまざまな土地の暮らし⑩ | 学年導入① 1 日本のあゆみ 歴史のとびらをあけよう① 大昔の暮らしと国の統一⑧ |
| 5 | わたしたちのまちのようす⑥ わたしたちの市のようす⑪ | 4 住みよいくらしをつくる 大単元の導入① ごみのしまつと活用⑫ 命とくらしをささえる水⑨ | | 貴族の政治とくらし⑧ |
| 6 | | | 2 わたしたちの食生活と食料生産 大単元の導入① 米作りのさかんな地域⑪ | 武士による政治のはじまり⑤ |
| 7 | 2 わたしたちのくらしとまちではたらく人びと 大単元の導入① 店ではたらく人びとの仕事⑬ | | | 今に伝わる室町の文化と人々の暮らし⑤ |
| 9 | | 5 安全なくらしを守る 大単元の導入① | 水産業のさかんな地域⑨ | 天下統一と江戸幕府⑨ |
| 10 | 工場ではたらく人びとの仕事⑩ | なくそう、こわい火事⑪ ふせごう、交通事故や事件⑩ | これからの食料生産⑤ 3 工業生産とわたしたちのくらし 大単元の導入① 自動車工業のさかんな地域⑩ | 江戸の社会と文化・学問⑥ |
| 11 | 3 安全なくらしを守る 大単元の導入① なくそう、こわい火事⑦ | 6 地いきのはってんにつくした人々 大単元の導入① よみがえらせよう、われらの広村⑫ | 日本の工業の特色⑨ | 明治の新しい国づくり⑦ |
| 12 | | | | 国力の充実をめざす日本と国際社会⑧ |
| 1 | ふせごう、交通事故や事件⑧ | 7 わたしたちの住んでいる県 大単元の導入① わたしたちの県のようす⑤ | 4 わたしたちのくらしを支える情報 大単元の導入① 情報をつくり、伝える⑥ | アジア・太平洋に広がる戦争⑧ |
| 2 | 4 今にのこる昔とくらしのうつりかわり 大単元の導入① 昔の道具と人びとのくらし⑩ | 県の人々のくらし⑮ | 情報化社会を生きる⑥ 5 国土の環境を守る 大単元の導入① 環境とわたしたちのくらし⑤ 森林とわたしたちのくらし⑥ | 新しい日本へのあゆみ⑨ |
| 3 | | 世界に広がる人とのつながり⑤ | 4 わたしたちのくらしを支える情報 大単元の導入① 情報をつくり、伝える⑥ | 2 わたしたちのくらしと政治 大単元の導入① わたしたちの願いと政治のはたらき⑨ わたしたちのくらしと憲法⑥ |
| | | | 5 国土の環境を守る 大単元の導入① 環境とわたしたちのくらし⑤ 森林とわたしたちのくらし⑥ | 3 世界のなかの日本とわたしたち 大単元の導入① 日本とつながりの深い国⑤ 国際連合のはたらきと日本人の役割⑧ |
| | | | 自然災害から人々を守る⑧ | |

2

2019年度における『小学社会』移行措置について

2020年度からの新学習指導要領実施に備え、新学習指導要領への移行のための期間（小学校：2018、2019年度）において、円滑な移行ができるよう内容を一部加える等の特例が設けられました。

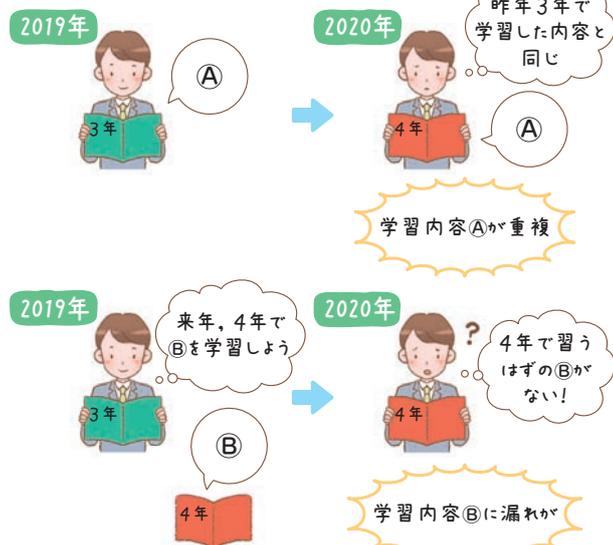
文部科学省より告示された『小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置ならびに移行期間中における学習指導について（通知）』において、小学校社会科での移行期における学習指導の対応として示されたものは、下記の通りです。

■ 社会については、全部又は一部について新小学校学習指導要領によることができることとするが、現行小学校学習指導要領による場合には、新小学校学習指導要領に定める内容の一部を追加又は適用すること。

■ 移行措置として、社会は、指導内容や指導する学年の変更などにより特例を定める教科となる。

つまり、2020年度から新学習指導要領をもとに学習指導を行うため、2018・2019年度に学習内容を調整する必要があるということです。

移行措置をおこなわないと…



などの問題が起こってしまいます

1 2018・2019年度の第5学年

（我が国の国土の様子についての単元）

- 日本の位置と範囲を学習する際、「海洋に囲まれた多数の島からなる国土の構成」に着目し、北海道、本州、四国、九州、沖縄島、北方領土などの主な島やその周辺の海洋に加え、6,800を超える大小多数の島々から成る我が国の国土の構成について指導する。
- 「領土の範囲」については、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国固有の領土であることに触れる。



第5学年については、現行版の教科書（『小学社会』5年上）で、大単元「日本の国土と人々の暮らし」の8～9ページにおいて日本の領土の範囲を示すとともに、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国固有の領土であることに触れています。現行版教科書をそのままお使いいただくことが可能です。

※展開例は、弊社ホームページに掲載しております。

(https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/new_cs_ikou/)

2 2019年度の第3学年

- 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事（＝3・4年上「昔からつたわる行事」）については指導しない。
- 地域社会における災害及び事故の防止（＝3・4年下「安全な暮らしを守る」）について指導する。ただし、災害については「火事」を選択すること。



第3学年については、現行本通りに指導することは困難であり、上記に示した内容を精選し、配当時数の削減をおこなう必要があります。

3

第3学年における年間指導計画案



2018年度まで

1 わたしたちの
住んでいるところ (24時間)

大単元の導入①

- 1 わたしたちのまちのようす⑫
- 2 わたしたちの市のようす⑪

2 わたしたちのくらしと
まちではたらく人びと (26時間)

大単元の導入①

- 1 店ではたらく人びとの仕事⑬
- 2 工場ではたらく人びとの仕事⑩
(選択：畑ではたらく人びとの仕事⑫)

3 今にのこる昔とくらしの
うつりかわり (19時間)

大単元の導入①

- 1 昔の道具と人びとのくらし⑪
- 2 昔からつたわる行事⑦

2019年度

1 わたしたちの住んでいるところ (18時間)

大単元の導入①

- 1 わたしたちのまちのようす⑥
- 2 わたしたちの市のようす⑪

まちたんけんのコースを工夫し、6時間削減
詳細は、5ページ参照

2 わたしたちのくらしとまちではたらく人びと (24時間)

大単元の導入①

- 1 店ではたらく人びとの仕事⑬
- 2 工場ではたらく人びとの仕事⑩
(選択：畑ではたらく人びとの仕事⑩)

『小学社会3・4年上』
P.82-82, P.88-89を、それぞれ2時間配当から1時間配当に削減

3 安全なくらしを守る (16時間)

大単元の導入①

- 1 なくそう、こわい火事⑦
- 2 ふせごう、交通事故や事件⑧

『小学社会3・4年下』
P.63-93を、5時間削減して学習
詳細は、6・7ページ参照

4 今にのこる昔とくらしのうつりかわり (11時間)

大単元の導入①

- 1 昔の道具と人びとのくらし⑩

『小学社会3・4年上』
P.114-115「昔の道具をさがしてみよう」を2時間配当から1時間配当に削減

実践にあたっての注意事項

【1 わたしたちの住んでいるところ】

- 第3学年では、学習内容が増えたため、各単元の配当時間を2018年度までよりも削減する必要があります。特に、新学習指導要領で市の学習に重点を置くことが明記されたことを受け、2019年度から「1わたしたちのまちのようす」は時間を大きく削減して授業をおこなう必要があります。
- まちたんけんのコース(『小学社会3・4年上』P.10-15)については、「東コース」と「西コース」を統合して「南コース」とし、ポイントを絞って探検することが考えられます。

【3 安全なくらしを守る】

- 『小学社会3・4年下』での配当時間よりも時間数を削減して授業をおこなう必要があります。そのため、消防署と警察署(交番)の見学活動を、いずれか一つに絞ることが考えられます。

【4 今にのこる昔とくらしのうつりかわり】

- 『小学社会3・4年上』P.126-137「2昔からつたわる行事」は、2020年度から第4学年で学習する内容になります。そのため、第3学年で学習する必要はありません。

4

第3学年の単元計画例

大単元1 わたしたちの住んでいるところ

「1 わたしたちのまちのようす」 単元計画例 (全6時間)



…変更のポイント

| 教科書 | ねらい | 子どもの活動と内容 | 評価規準の具体例 |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 屋上に上がって ① 上 P.4-7 | 四方位を知り、屋上に上がって、それぞれの方位に見えるまちの様子を観察することができる。 | ① 屋上からどんなものが見えるかを予想する。 ❓ 学校の屋上から、どのようなものが見えるのだろうか。 ② 方位のたしかめ方を知り、方位磁石を使って方位をたしかめる。 ③ 屋上で気をつけることを確認し、それぞれの方位に見えるまちの様子を観察し、自分たちのまちにはどんなところがあるのか話し合う。 👤 屋上からまちの様子をスケッチする活動は省略 | 〔関心・意欲・態度〕 それぞれの方位や学校からの距離に気をつけながら、特徴のある建物や自然物に着目して、まちの様子を調べようとしている。 (子どもの発言・ワークシート) |
| まちたんけんの計画を立てる ① 上 P.8-9 | まちの様子を調べるために、調べたいことや調べる方法を明確にし、探検の計画を立てることができる。 | ① 前時を振り返り、まちたんけんに行く目的を確認する。 ❓ まちたんけんに行くためには、どんなことを決めたらいいのだろう。 ② 調べること、調べ方、まとめ方を確認する。 ③ 持っていくものと注意することを確認する。 👤 教科書では北・東・西の3コースの設定しているが、時数の都合で北・南の2コースに変更 | 〔関心・意欲・態度〕 まちの様子について課題意識を持ち、調べる内容や方法、持っていくものなどを、見通しをもって計画している。 (子どもの発言) |
| 北コースのたんけん ① 上 P.10-11 | 北コースをグループで歩いて観察やインタビューをし、北コースの様子についてまとめることができる。 | ❓ 学校の北がわには、どんなものがあるのだろうか。 ① 学校をスタートし、北コースを順路通りに探検する。(スーパーマーケット・大池など) ② コースを探検しながら気づいたことを白地図や発見カードにかき入れる。 ③ 探検で調べたことを整理して、グループで絵地図にまとめる。 | 〔観察・技能〕 北コースの地形や土地の使い方、主な公共施設の場所と働きなどに着目して観察し、気づいたことを白地図にまとめている。 (白地図・発見カード) |
| 南コースのたんけん ① 上 P.12-15 | 南コースをグループで歩いて観察やインタビューをし、南コースの様子についてまとめることができる。 | ❓ 学校の南がわには、どんなものがあるのだろうか。 ① ゆとりをもってたんけんするために、南コースを順路通りに探検する。(公共施設・古い建物など) ② コースを探検しながら気づいたことを白地図や発見カードにかき入れる。 ③ 探検で調べたことを整理して、グループで絵地図にまとめる。 | 〔観察・技能〕 南コースの地形や土地の使い方、主な公共施設や古い建造物の場所や働きなどに着目して観察し、気づいたことを白地図にまとめている。 (白地図・発見カード) |
| 絵地図を整理する ① 上 P.16-17 | 2コースの絵地図をつなげ、共通点や相違点に気づき、地図記号の必要性について考えることができる。 | ① 2コースの絵地図をつなげ、1枚の絵地図にして、気づいたことを話し合う。 ❓ どうしたら、わかりやすい地図になるのだろうか。 ② 分かりやすい地図にする方法について話し合う。 ③ 地図記号を使った地図(教師の提示)と絵地図を比べ、違いなどを話し合う。 👤 絵地図をつくり直す活動は省略 | 〔思考・判断・表現〕 自分の決めた記号を使い、比較することで、違いや疑問を見つけ、共通の記号の必要性などについて考え、話し合っている。 (絵地図) |
| 地図を見て話し合う ふりかえってみよう ① 上 P.18-21 | まちの様子について話し合い、自分たちのまちの特色について自分の考えを深めることができる。 | ❓ わたしたちのまちは、どのようなまちといえるのだろうか。 ① 絵地図と提示された地図を見ながら、気づいたことを話し合う。 ② 学校のまわりの様子についてまとめ、さらに広い地域へ関心をもつ。 👤 地図について話し合う活動は簡略化 | 〔思考・判断・表現〕 地図を見比べながら、自分たちのまちの特色について自分の考えを適切に表現している。 (子どもの発言・ノート) |

大単元3 安全な暮らしを守る

「1 なくそう、こわい火事」 単元計画例 (全7時間)

※ 第4学年では
変更する必要はありません。

| 教科書 | ねらい | 子どもの活動と内容 | 評価規準の具体例 |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| わたしたちのまちの火事を調べる ① 下 P.64-67 | 火事による人の被害や原因を話し合い、消防署の仕組みやそこで働く人々の活動に関心を持ち、調べることができる。 | ① 火事が起こったときに消火活動に携わる人々の活動に気づく。 ② わたしたちのまちでは、どれぐらいの火事がおこっているのだろう。 ③ 火事の発生件数や火事による被害、原因について調べ、気づいたことを話し合う。 ④ 消防署で調べたいこと見学カードにまとめる。 👤 火事の燃え広がる速さを調べる活動は省略 | 〔関心・意欲・態度〕 火事の各種資料などから、火事の原因や消火活動に関わる人々の活動について関心を持ち、意欲的に調べている。 (子どもの発言・ノート) |
| 消ぼうしょへ見学に行こう ② 下 P.68-69 | 消防署を見学し、火事に対応するための消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つめることができる。 | ① 見学をするためのねらいの確認をする。 ② 消ぼうしょで働く人たちは、どのような仕事をしているのだろう。 ③ 消防署の施設や設備、消防署の人々の活動の工夫を調べ、消防署の係の人から話を聞く。 ④ 分かったことや思ったことをまとめる。 | 〔観察・技能〕 見学や聞き取りをおこない、消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つけ、ノートにまとめている。 (見学カード・聞き取りの様子) |
| 119番のしくみを調べる ① 下 P.70-71 | 119番通報の仕組みを調べ、火事に素早く対応できる通信指令室の役割や関係機関との協力体制について考えることができる。 | ① 模擬体験を通して、119番通報で消防署に連絡する方法や内容の工夫について話し合う。 ② 消ぼうしょでは、じっさいに火事がおきたら、どのような活動をするのだろう。 ③ 通信指令室では119番通報で受け取った情報をどこへ伝えているか、また、通信指令室ではどのようにして素早く火事に対応しているのか、話し合う。 | 〔思考・判断・表現〕 119番の仕組みを調べることを通して、消防本部の通信指令室の役割や関係諸機関との連携・協力体制について話し合っている。 (子どもの発言・ノート) |
| 消ぼう隊員の仕事 ① 下 P.72-73 | 消防署で働く人々が日ごろから防災のためにおこなっている工夫や努力について考え、表現することができる。 | ① 写真を見て、話し合う。 ② 消ぼう隊員は、火事のないとき、どのような仕事をしているのだろう。 ③ 点検や訓練などの日ごろの備え、消防隊員の工夫や努力を支える思いについて考え、話し合う。 ④ 自分の考えやさらに気になることをまとめる。 | 〔思考・判断・表現〕 消防署で働く人々が日ごろから防火・防災のためにおこなっている様々な仕事や思いを考え、適切に表現している。 (ワークシート・ノート) |
| 学校を火事から守るために ① 下 P.74-75 | 学校の消防設備を調べ、その配置図を基に話し合い、学校には消防設備が整備されていることを理解することができる。 | ① もしも学校で火事がおこっても、だいじょうぶなのだろうか。 ② 校内の消防設備を調べ、白地図にまとめる。 ③ 地図をもとに話し合い、学校における消防設備についてまとめ、家庭や地域における消防設備について関心を寄せる。 | 〔観察・技能〕 学校における消防設備について調べ、白地図にまとめ、その配置図からどのような備えがあるのかを読み取っている。 (子どもの発言・ノート) |
| 地いきの消ぼうせつびと消ぼうだん ① 下 P.76-77 | 地域の消防設備や消防団の働きを調べ、地域を守ろうとしている消防団の思いを考えることができる。 | ① わたしたちの地いきには、どのような消ぼうせつびや取り組みがあるのだろう。 ② 地図から地域にある消防設備について話し合い、用途や働き、配置されている工夫について考える。 ③ 消防団の働きを知り、地域を守る消防団の人々の思いに気づき、ノートにまとめる。 | 〔観察・技能〕 消防設備の配置の地図から気づいた工夫と、地域を守ろうとしている消防団の思いを読み取り、まとめている。 (子どもの発言・ノート) |



・ P.78-79 は、2020年度の第4学年で学習するため省略
・ P.80-81 のふりかえってみようは、警察の仕事の学習後、火事と事故の両面からあわせて学習
・ P.94-101 「地しんにそなえて」は、2020年度の第4学年で学習するため選択しない

大単元3 安全なくらしを守る

「2 ふせごう, 交通事故や事件」 単元計画例 (全8時間)

※ 第4学年では
変更する必要はありません。

| 教科書 | ねらい | 子どもの活動と内容 | 評価規準の具体例 |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 身近なところの交通事故 ① 下 P.82-83 | 交通事故は命を脅かす恐ろしいものであることに気づくとともに、事故の発生原因に関心をもつことができる。 | ① 体験や見聞をもとに交通事故について話し合う。 ② わたしたちの身近なところでは、どれぐらい交通事故がおきているのだろう。 ③ 交通事故のグラフから読み取ったことを、話し合う。 ④ 警察署や交番, 110番などについて調べることについて計画メモに記入し、話し合う。 | 〔関心・意欲・態度〕 実際に見た交通事故の体験談や資料から交通事故に関心を持ち、意欲的に考え、追究しようとしている。 (子どもの発言・ノート・計画メモ) |
| 110番のしくみ ① 下 P.84-85 | 警察署の見学を通して、交通事故が起きたときの緊急に対応する仕組みや人々の働きを理解することができる。 | ④ 事故がおきたら、だれが、どのように活動するのだろう。 ① 110番の連絡の仕組みについて、教科書で調べる。 ② 疑問点について教科書や資料で調べる。 ③ 調べて分かったことを計画メモに記入し、グループで振り返りをする。 👤 見学は消防署か警察署のどちらかを選択(※この指導計画では、消防署へ見学に行く設定) 119番のしくみは既習のため、1時間に短縮 | 〔観察・技能〕 交通事故が起きたときの緊急に対応する仕組みや人々の働きについて調査したことを分かりやすくまとめている。 (計画メモ・個人のメモ等) |
| 交通事故をふせぐ取り組み ② 下 P.86-87 | 交通事故を防ぐ人々の取り組みや交通ルールなどを調べ、交通事故をなくす方法を考えることができる。 | ④ 交通事故をふせぐために、けいさつしょの人たちはどのような取り組みをしているのだろう。 ① 交通事故を防ぐための警察署の取り組みや交通ルールについて調べ、話し合う。 ③ 交通事故を防ぐために自分たちができることを考え話し合い、ノートにまとめる。 | 〔思考・判断・表現〕 交通事故をなくすにはどうすればよいかについて、警察署の人々の取り組みや交通ルールと関連づけて考えている。 (子どもの発言・ノート) |
| 町で見かけるけいさつしょの人の仕事 ① 下 P.88-89 | 交番の人の1日の仕事を調べ、人々の安全なくらしを守るために様々な仕事をしていることを理解することができる。 | ① 交通事故を防ぐこと以外の警察署の人の仕事について知っていることを発表する。 ④ 交番につとめるけいさつしょの人は、ふだんはどんな仕事をしているのだろう。 ② 交番に勤める警察署の人の1日の仕事について調べ、話し合い、仕事の目的についてまとめる。 | 〔知識・理解〕 交番に勤める警察署の人が人々の安全なくらしを守るために様々な仕事をしていることを理解している。 (子どもの発言・ノート) |
| 地いきの人々とともに ② 下 P.90-91 | 警察署の人と住民が一緒におこなっている様々な活動を調べ、みんなが協力して安全な町づくりをしていく大切さをまとめることができる。 | ① 警察署の人と地域住民が協力している町の安全を守る活動について、知っていることを発表する。 ④ けいさつしょの人のほかに、だれが町の安全を守っているのだろう。 ② グループで活動を選び、具体的な内容や目的をまとめ、グループごとに発表し、話し合う。 ③ 町の安全のためにできることを考える。 | 〔観察・技能〕 パンフレットなどを活用し、安全のために警察署の人と住民が協力しておこなっている活動の内容と目的を工夫してまとめ、発表している。 (発表) |
| ふりかえってみよう ① 下 P.92-93 | 地域の安全マップについて話し合い、安全なくらしについての自分の考えを深めることができる。 | ④ 安全を守るために、わたしたちは何ができるのだろう。 ① 消防や警察の地域を守る学習の成果を発表し、振り返る。 ② 安全マップをつくるための調べ方や学び方などについて振り返る。 👤 安全のために自分たちにできることを考えるように配慮 | 〔思考・判断・表現〕 「安全マップ」を活用し、自分も地域の安全を守ろうとする大切さを適切に表現している。 (発表原稿・子どもの発言) |

5

移行措置実施の際の留意事項

移行期の学習の内容について述べましたが、実際の授業実践では、次の事項に留意する必要があります。

1 地図づくりの時間削減について

現行教科書3・4年上の小単元「1わたしたちのまちのようす」において、「友だちのスケッチとくらべる」や「コースたんけん」、「絵地図を整理する」の各時間の配当時数減により、「結果を絵地図や地図記号を使った平面地図にまとめる活動」が制限されることになり、絵地図から平面地図への指導が十分に行えないことが懸念されます。

現学習指導要領解説社会編では、「身近な地域の様子については、児童の発達の段階や学習経験を十分に考慮して、社会的事象を観察したり、聞き取りなどの調査を行ったりして、その結果を絵地図や地図記号を使った平面地図にまとめる活動を行うようにする」と、丁寧な指導を求めています。

実際の指導にあたっては、生活科で児童がつくった絵地図や探検で使われた地図等を活用し、絵地図よりもさらに詳しく表現するためにはどうすればよいかを考えさせるとともに、まちの鳥瞰図や空中写真などの活用を図り、教科書や副読本の地図記号などを参考に平面地図に移行させることが考えられます。

2 消防署や警察署の見学について

現行教科書3・4年下の大単元「安全なくらしを守る」が、移行措置により2019年度は、3年と4年の2学年ともに実施することになります。年間指導計画での実施時期は、3年は12月から1月、4年は9月

から10月となっています。

見学の実施時期が年間指導計画上は重ならないとはいえ、見学や聞き取り調べなど2度にわたる協力をお願いしなければならず、地域の消防署や警察署の行事、地域社会での関係諸機関や関係者などとの連絡調整が必要となってきます。

なお、3年の見学においては、配当時数削減により、消防署、警察署のどちらか一方の見学としています。

3 漢字やグラフなどの表記について

「安全なくらしを守る」は、現行教科書3・4年下に掲載されており、教科書3・4年下においては、3年配当漢字にはルビがないことや難しい言葉が多いこと、統計資料の活用などの問題が予想されます。

例えば、「安全なくらしを守る」の導入で使用されている「安、全、命、守、波」以外にも単元全体では約60字があり、「体験、関係、市民」など3年の児童にとっては難しい言葉も多く見受けられます。

統計資料の活用においては、3年の算数科で学ぶ数の範囲は、3～4位数であることや、簡単なグラフと棒グラフの読み取りなど、検討しなければならない問題もあります。そして、各地の地域副読本によっては、統計資料の活用について、再考する必要も出てくることが考えられます。

こうした問題点の多くは、検討が必要となります。習っていない漢字の場合には教師が読み上げるなどしてルビをつけさせ、難易語と同様に説明をつけること、グラフの読み取りについては、全員で数値を確認するなどのより丁寧な対応が求められます。

小学校社会科 よく分かる! 2019年度移行措置のポイント

日文 教授用資料

平成30年(2018年)9月3日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33413

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690